

今、卒業証書を手にした、一八六名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

皆さんとの出会いは、四月の新任式の日でした。異動してきたばかりで、不安の大きかった私に、皆さんはとても優しく、そして、たくましく見えました。その時の、生徒会長を中心とした、役員の仕事ぶり、そして生徒代表歓迎の言葉は、今でも心に残っています。

その後の思い出は、笑顔にあふれ、タクシーから降りてきた修学旅行の班別研修、新型コロナウイルス感染症が、まだ五類になる前だったので、全員の笑顔を見たときの、ほっとした気持ちは忘れられません。また新幹線の中、そっと出された小さな折り鶴に、優しい心遣いが感じられ、疲れが軽くなったことも覚えています。

長縄跳びが苦手な子に対し、そっと背中を押す優しい姿、またボランティア「応援し隊」による、応援「あげあげほいほい」が見られた体育祭、みなさんの優しさやたくましさが見られ、阿久津中学校を背負っているな、と強く感じられました。またクラスごとに作成した学級旗が、見事でした。

美しい歌声を響かせ、クラスの団結を高めた合唱コンクール。審査員の先生から「昨年より、ずっと声が出ていましたよ。」という言葉に、みなさんのクラスを思う強い気持ちが感じられ、とてもうれしくなりました。できることなら、もっと素敵なおステージで歌い、輝いている姿が見たかった、という思いが残りしました。

部活動では、総合体育大会や、県学校音楽祭等の最後の大会での、みなさんの必死な姿に、そして終わった後の笑顔、そして涙に感動しました。その人の気持ちは、一つ一つのプレーや演奏に表れる、ということを強く感じる一瞬でした。結果は、様々でしたが、最後までやり抜いたことの価値は同じです。そんなみなさんを応援するために、県内各地はもとより、県外にまで

応援に行けたこと、今考えると、とても楽しい時間でした。

この他にも、校則の変更がありました。それまでのみなさんを見て、信頼できると判断し、変更を決断しました。そして今、変更してよかったと強く思っています。

これ以外にも、この一年間のみなさんの姿は、在校生たちの手本であり、これからの道しるべになると確信しています。そんな皆さんに、卒業証書を一人一人手渡すことができ、本当に幸せを感じています。

さて、今日は卒業する皆さんに、最後のお願いがあります。それは、これからの人生「自分が置かれた場所で、今できることを、精一杯、素直にやりとおしてください。」

こんな気持ちで 学習や仕事をしていると、それを見て、助けてくれる人が現れます。次に、それを認め、褒めてくれる人が現れます。そして、認めてくれた人達が、自分のやりたい学習や仕事へと導いてくれます。これからの人生で、我慢してやらなければならぬことが、たくさん出てきます。そんな時は、この言葉を思い出して、乗り越えてください。それがみなさんの、幸せにつながります。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとございます。私共教職員は、お子様の成長の一助になれるよう、日々努めてまいりました。至らない点も、多々あったと思いますが、それにも関わらず、本校教育に、深い御理解と、温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。いよいよお別れです。自分が学び巣立っていく、阿久津中学校、そして自分が生まれ育った郷土、高根沢町を愛し、国際的な広い視野と、より高い志を持って、自分の信じた道を、力強く前進してくれることを祈念し、式辞と致します。

令和六年三月八日

高根沢町立阿久津中学校長

